

11 介護保険制度運営に関する市民の意識と意向

つぎに介護保険制度の運営に関する市民の意識と意向を見る。

<まとめ>

介護保険制度に関する認知度は、利用者・未利用者に比べると施設等入所者では低い。自分の介護保険料については、利用者・未利用者に比べると施設等入所者では「知らない」割合が高い。介護保険サービスの充実と保険料のあり方では、利用者は「今くらいが妥当」、未利用者は「どちらともいえない」、施設等入所者は「無回答」の割合が多くなっている。

(1) 介護保険制度の認知度

利用者・未利用者ともに最も知っている項目は「要支援・要介護認定を受ければ介護保険サービスが利用できること(利用者：64.8%、未利用者：68.7%)」である。ついで、利用者では「介護保険サービスを利用したら、利用料の1割を負担すること(64.7%)」、未利用者では「65歳以上の方は、全員保険料を支払っていること(66.0%)」などが多い。利用者は「利用料の1割負担」に対する認知度が比較的高い。施設等入所者は、利用者・未利用者と比較してどの項目も全般的に認知度が低い。

なお、「介護保険サービス提供量を拡大充実すると保険料は高くなること」については、利用者では3割台、未利用者では2割台など、認知度は低くなっている。

年代別に見ると、前期高齢者の認知度が高くなっている。後期高齢者、特に85歳以上の方では認知度がやや低くなる傾向がある。

高齢者一般調査での介護保険制度に関する認知度を見ると、「65歳以上の方は全員保険料を払っていること(81.5%)」は8割以上、「介護保険サービスの利用には、要介護認定を受けること(74.1%)」は7割以上と、高くなっている(図表 -11-1- ~)。

図表 - 11 - 1 - 介護保険制度の認知度

(利用者調査、未利用者調査、施設等入所者調査 / 全体、年代別 / 複数回答)

(%)

	n	65歳以上の方は、全員保険料を支払っていること	介護保険制度の財源は、保険料と負担金で構成されていること	要支援・要介護認定を受ければ介護保険サービスが利用できること	介護保険サービスを利用したら、利用料の1割を負担すること	保険料を滞納すると、介護保険サービスの利用が制限されること	65歳以上の方の保険料は、9月までは「半額」徴収だったこと	介護保険サービス提供量を拡大充実すると保険料は高くなること	無回答
利用者	1,806	61.6	55.1	64.8	64.7	31.2	43.8	32.0	22.3
未利用者	268	66.0	57.5	68.7	56.3	33.2	43.3	25.0	17.5
施設入所者	552	38.2	29.9	33.2	29.0	14.5	20.5	13.2	51.1

(%)

	n	65歳以上の方は、全員保険料を支払っていること	介護保険制度の財源は、保険料と負担金で構成されていること	要支援・要介護認定を受ければ介護保険サービスが利用できること	介護保険サービスを利用したら、利用料の1割を負担すること	保険料を滞納すると、介護保険サービスの利用が制限されること	65歳以上の方の保険料は、9月までは「半額」徴収だったこと	介護保険サービス提供量を拡大充実すると保険料は高くなること	無回答
利用者	80	41.3	68.8	68.8	72.5	32.5	36.3	27.5	18.8
前期高齢者	369	69.1	63.7	72.4	70.5	36.0	53.4	34.4	17.1
後期高齢者	1,323	61.0	52.3	63.1	63.2	29.9	42.0	31.9	23.4
85歳以上 - 再掲 -	557	60.1	49.4	62.8	61.4	28.7	39.1	30.2	24.2
未利用者	16	12.5	68.8	68.8	56.3	25.0	31.3	31.3	12.5
前期高齢者	59	71.2	55.9	74.6	62.7	39.0	47.5	27.1	15.3
後期高齢者	193	68.9	57.0	66.8	54.4	32.1	43.0	23.8	18.7
85歳以上 - 再掲 -	77	55.8	46.8	61.0	48.1	26.0	41.6	26.0	22.1
施設入所者	12	33.3	58.3	58.3	16.7	25.0	8.3	16.7	25.0
前期高齢者	74	36.5	29.7	37.8	31.1	16.2	23.0	12.2	50.0
後期高齢者	465	38.7	29.2	31.8	29.0	14.0	20.4	13.3	51.8
85歳以上 - 再掲 -	276	39.1	29.7	32.2	29.3	15.9	22.5	15.6	52.2

図表 - 11 - 1 - 介護保険制度の認知度

(高齢者一般調査 / 全体 / 複数回答)

(%)

	n	65歳以上の方は、全員保険料を支払っていること	介護保険制度の財源は、保険料と負担金で構成されていること	要支援・要介護認定を受ければ介護保険サービスが利用できること	介護保険サービスを利用したら、利用料の1割を負担すること	保険料を滞納すると、介護保険サービスの利用が制限されること	65歳以上の方の保険料は、9月までは「半額」徴収だったこと	介護保険サービス提供量を拡大充実すると保険料は高くなること	無回答
高齢者一般	2,611	81.5	69.2	74.1	51.1	40.4	62.4	39.3	11.2

(2) 介護保険サービスの充実と保険料のあり方に関する認知度

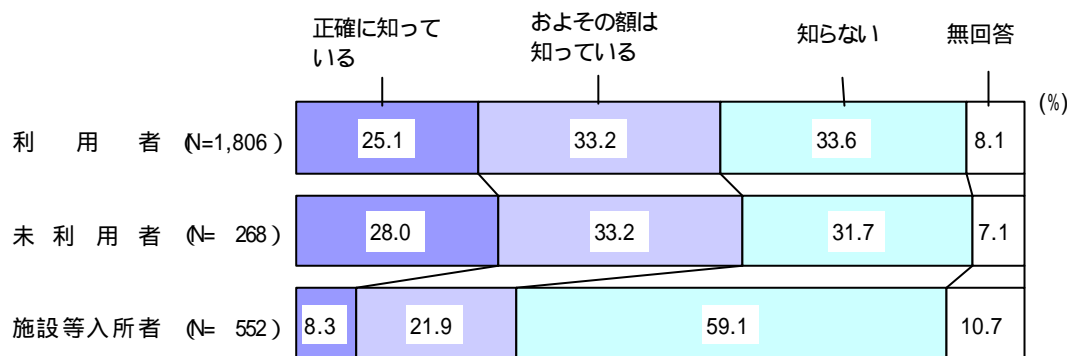
自分の介護保険料の認知

自分の介護保険料を知っているかをそれぞれたずねた。

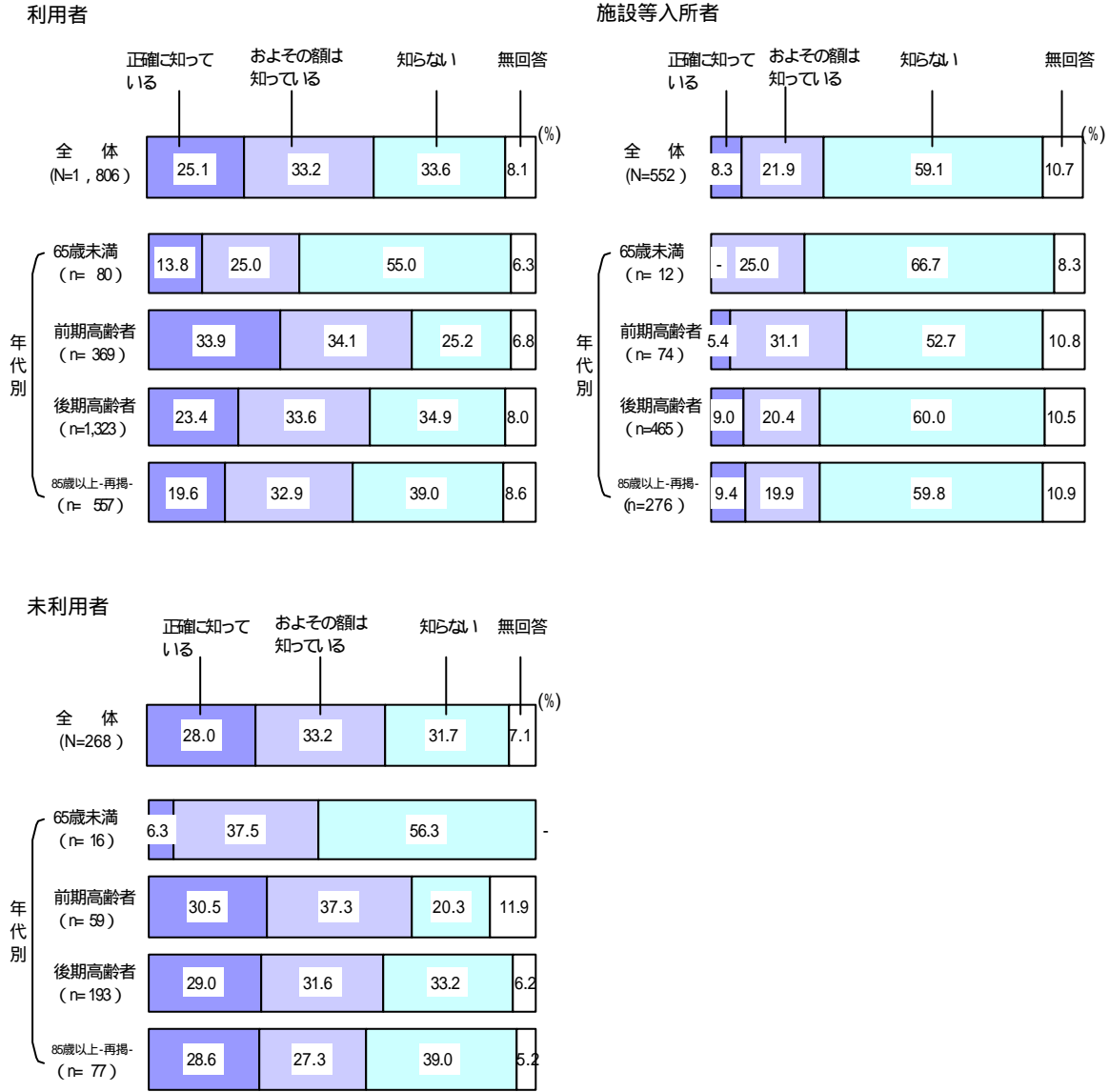
「正確に知っている」と回答したのは利用者が25.1%、未利用者が28.0%、「およその額を知っている」と回答したのは利用者・未利用者ともに33.2%で、合わせて約6割が自分の介護保険料を知っているとしている。一方、施設等入所者については、「正確に知っている(8.3%)」と「およその額を知っている(21.9%)」を合わせても約3割であり、約6割が自分の介護保険料を知らないとしている。

それぞれの回答を、年代別に見た。利用者・未利用者・施設等入所者ともに65歳未満では「知らない」という回答が多くなっている。また、前期高齢者は利用者・未利用者・施設等入所者ともに「正確に知っている」「およその額は知っている」という割合が高くなっている(図表 -11-2- ~)。

図表 - 11 - 2 - 自分の介護保険料の認知
(利用者調査、未利用者調査、施設等入所者調査 / 全体)



図表 - 11 - 2 - 自分の介護保険料の認知
(利用者調査、未利用者調査、施設等入所者調査 / 全体、年代別)



介護保険サービスの充実と保険料のあり方

それぞれに、介護保険サービスの充実と保険料のあり方をたずねた。

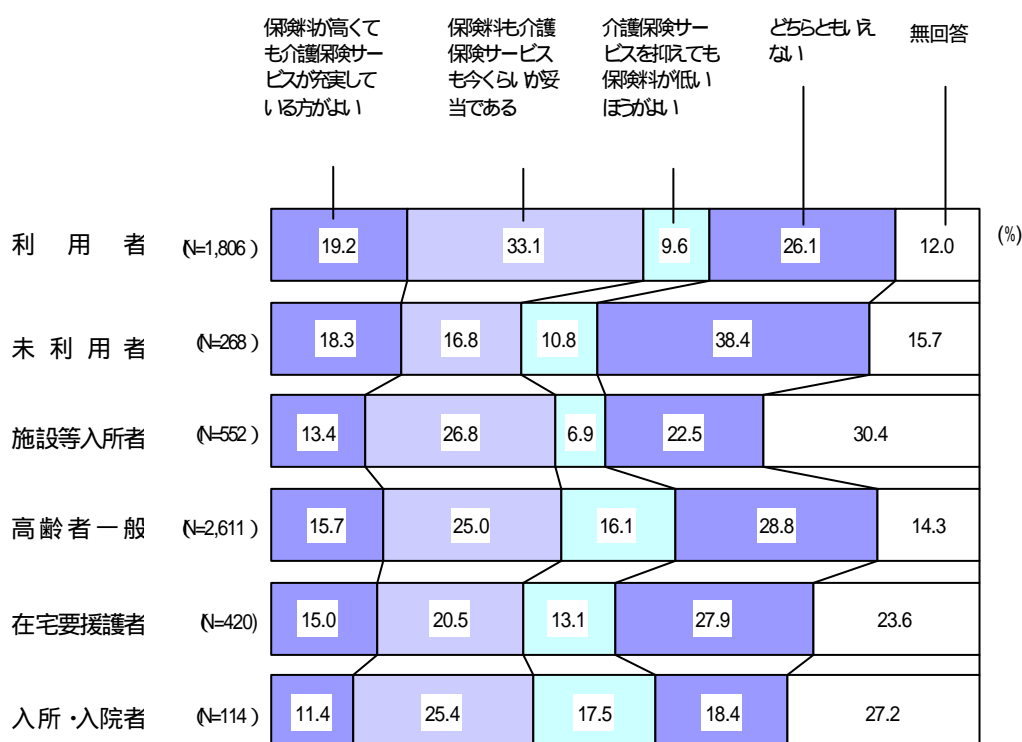
まず、利用者については、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である《現状維持派》」が 33.1%、「保険料が高くて介護保険サービスが充実している方がよい《サービス保険料充実派》」が 19.2%、「介護保険サービスを抑えても保険料が低いほうがよい《サービス保険料抑制派》」は 9.6%となっている。

未利用者については、《現状維持派》が 16.8%、《サービス保険料充実派》が 18.3%、《サービス保険料抑制派》が 10.8%となっている。また、「どちらともいえない」とする回答が多く、38.4%あった。

施設等入所者については、《現状維持派》が 26.8%、《サービス保険料充実派》が 13.4%、《サービス保険料抑制派》が 6.9%となっているが、「どちらともいえない(22.5%)」、「無回答(30.4%)」を合わせた割合は半数以上となっている。

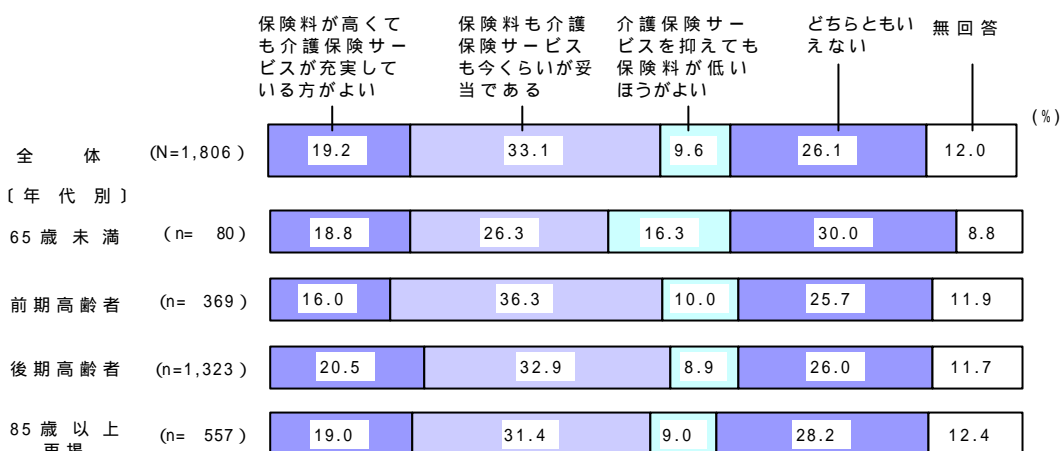
参考に、一般高齢者調査の結果と比べると、やはりいずれも「どちらともいえない」あるいは「無回答」が4～5割を占める中で、入所・入院者において《サービス保険料抑制派》(17.5%)が《サービス保険料充実派》(11.4%)をかなり上回っているほかは、高齢者一般、在宅要援護者ともに両者が拮抗している(図表 - 11 - 3 - ~)。

図表 - 11 - 3 - 介護保険サービスの充実と保険料のあり方
(利用者調査、未利用者調査、施設等入所者調査、
高齢者一般調査、在宅要援護者調査、入所・入院者調査/全体)

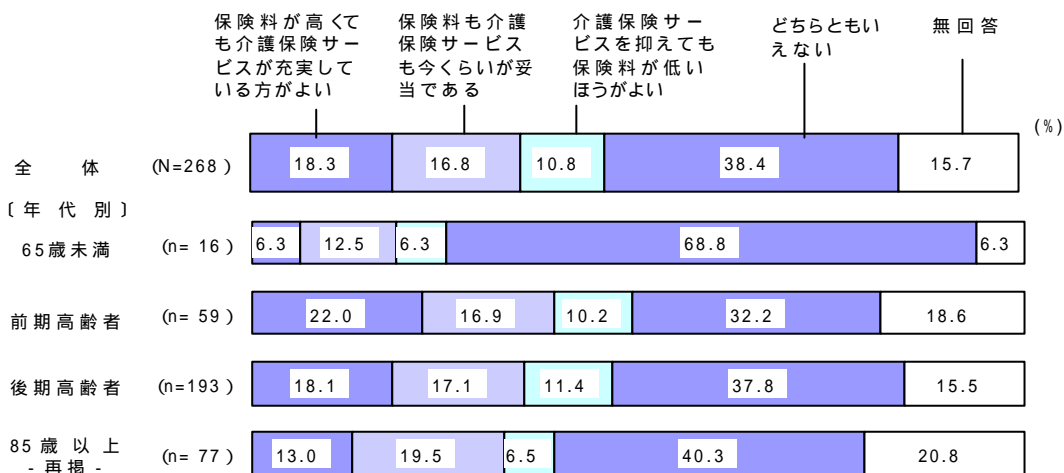


図表 - 11 - 3 - 介護保険サービスの充実と保険料のあり方
(利用者調査、未利用者調査、施設等入所者調査 / 全体、年代別)

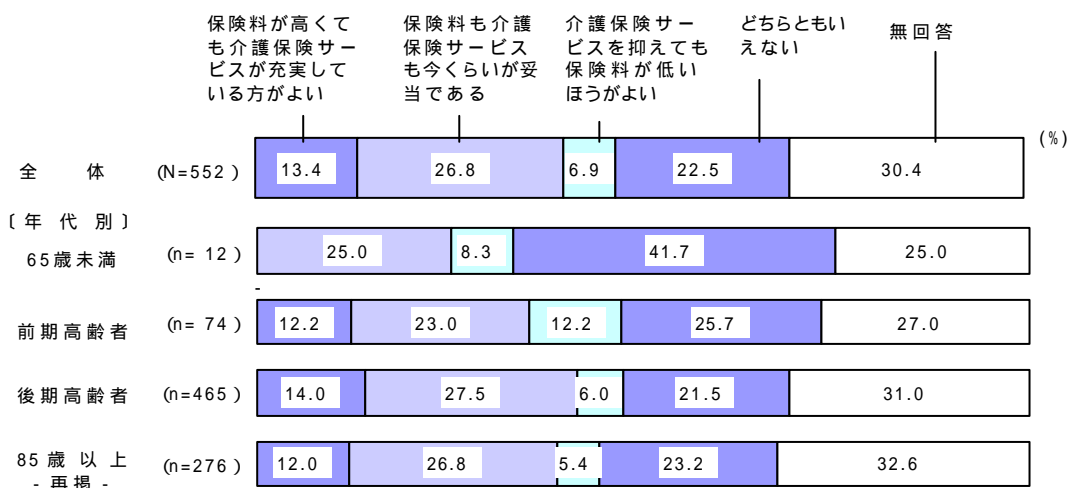
利用者



未利用者



施設等入所者



保険料に対する考え方と介護保険サービス利用の現状と意向の関係

保険料に対する考え方の回答別に、介護保険サービス利用の現状や意向がどのように異なるか、利用者調査の結果を用いて分析した。

まず、《サービス保険料充実派》は「訪問介護（家事援助主体）」、「訪問介護（身体介護主体）」などをはじめ、様々なサービスを比較的に利用しており、逆に《サービス保険料抑制派》は全体と比較してサービス利用割合が低くなっている。

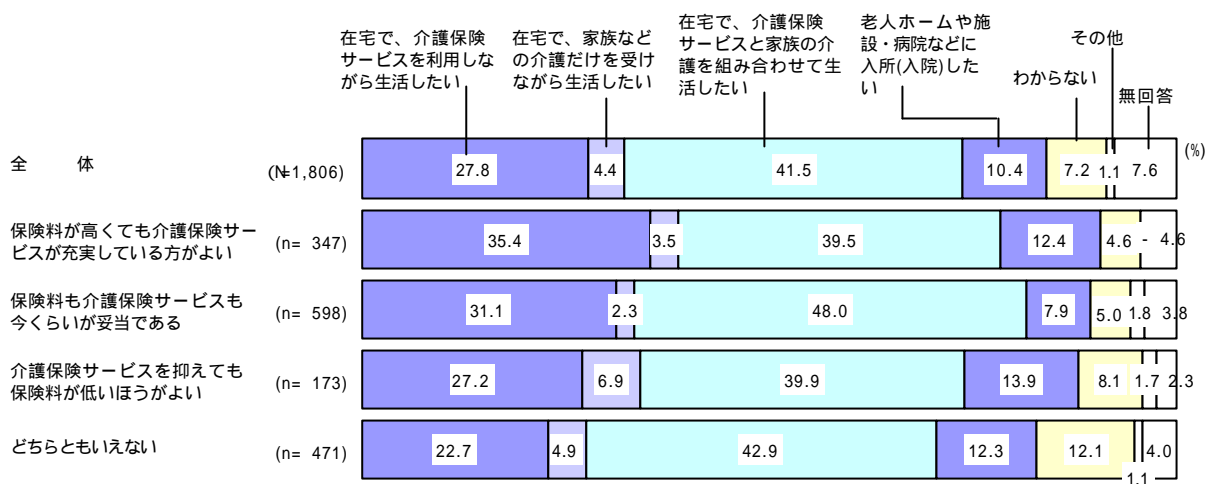
また、今後の過ごし方について見ると、《サービス保険料充実派》は「在宅で、介護保険サービスを利用しながら生活したい（35.4%）」の割合が高く、《現状維持派》は「在宅で、介護保険と家族の介護を組み合わせたい（48.0%）」の割合が高くなっている。

さらに、今後の介護保険制度運営に対しては（12参照）《サービス保険料充実派》は「サービス事業者の質の向上に努めること」「介護支援専門員やホームヘルパーなどの人材を育成すること」「家族介護の負担を軽減すること」などへの意向が高く、《サービス保険料抑制派》は「利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること」への意向が高くなっている（図表 - 11 - 4 - ~ ）。

図表 - 11 - 4 - 保険料に対する考え方別、介護保険サービスの利用
（利用者調査 / 全体、保険料に対する考え方別）

		訪問介護 (家事援助主体)	訪問介護 (身体介護主体)	訪問看護	訪問リハビリ テーション	訪問入浴 介護	居宅療養 管理指導	通所介護 (デイサービス)	通所リハ ビリエーション	短期入所 生活介護 (ショートステイ)	短期入所 療養介護 (ショートステイ)	痴呆性 対応型 共同生活 介護 (グループホーム)	特定 施設 入所者 生活 介護 (有料老人 ホーム)	福祉 用具 の貸与 ・ 購入 費の 支給	住宅 改修 費の 支給	無 回 答
全 体	(N=1,806)	38.3	18.1	11.2	3.5	9.8	2.7	32.2	6.8	12.8	4.4	0.2	1.1	19.5	10.7	15.6
保険料が高くても介護保険サービスが充実している方がよい	(n= 347)	46.4	25.4	15.9	6.3	15.3	4.3	30.3	5.5	12.7	4.3	-	0.9	21.6	11.2	13.5
保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である	(n= 598)	42.3	20.2	9.5	3.3	9.5	2.0	34.8	8.2	12.9	3.5	-	1.2	21.1	13.2	11.2
介護保険サービスを抑えても保険料が低いほうがよい	(n= 173)	32.9	9.8	8.7	2.9	5.8	2.3	28.9	8.1	12.7	4.6	0.6	1.7	13.9	10.4	16.2
どちらともいえない	(n= 471)	34.2	17.0	12.1	3.2	8.3	3.0	34.4	6.2	14.4	5.7	0.2	1.1	20.6	9.3	14.6

図表 - 11 - 4 - 保険料に対する考え方別、今後の過ごし方
(利用者調査 / 全体、保険料に対する考え方別)



図表 - 11 - 4 - 保険料に対する考え方別、今後の介護保険制度運営について
(利用者調査 / 全体、保険料に対する考え方別)

		つとめること	介護支援専門員やホームヘルパーなどの人材を育成すること	特別養護老人ホームなどの施設をふやしていくこと	利用料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること	介護保険サービスの利用が増えること	予防のサービスに力を入れること	地域全体で介護を支える基盤づくりを行うこと	困ったときに気軽に介護相談ができる場所をふやすこと	家族介護の負担を軽減すること	その他	わからない	無回答
全体	(N=1,806)	29.4	31.2	30.6	34.2	4.5	26.5	9.2	21.5	30.8	1.1	4.7	13.5
保険料が高くて介護保険サービスが充実している方がよい	(n= 347)	43.2	43.2	35.7	25.1	5.8	27.4	11.0	22.5	36.0	1.2	1.4	6.6
保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である	(n= 598)	31.9	37.1	29.3	35.5	5.4	30.8	11.7	22.2	31.8	-	3.8	8.5
介護保険サービスを抑えても保険料が低いほうがよい	(n= 173)	20.2	21.4	29.5	49.1	4.6	25.4	6.9	23.1	23.1	1.7	4.6	16.2
どちらともいえない	(n= 471)	27.6	25.7	31.8	41.8	4.7	26.8	7.4	23.1	35.2	1.9	7.0	8.9